

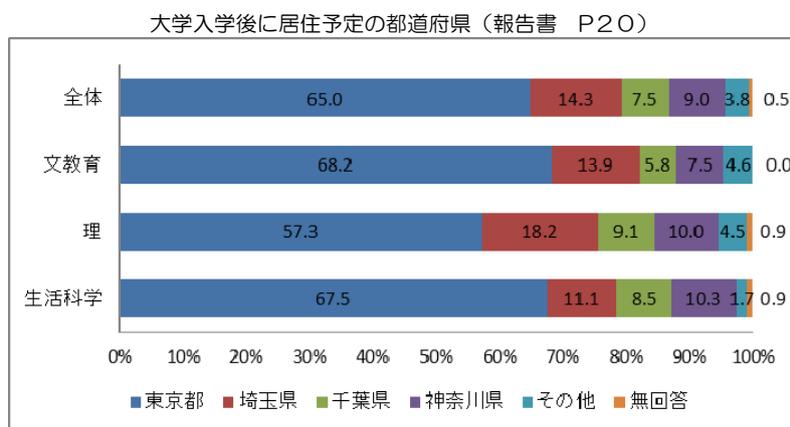
平成24年度「新入生の生活に関する調査」

第2回 「お茶の水女子大学に入学後の学生生活」

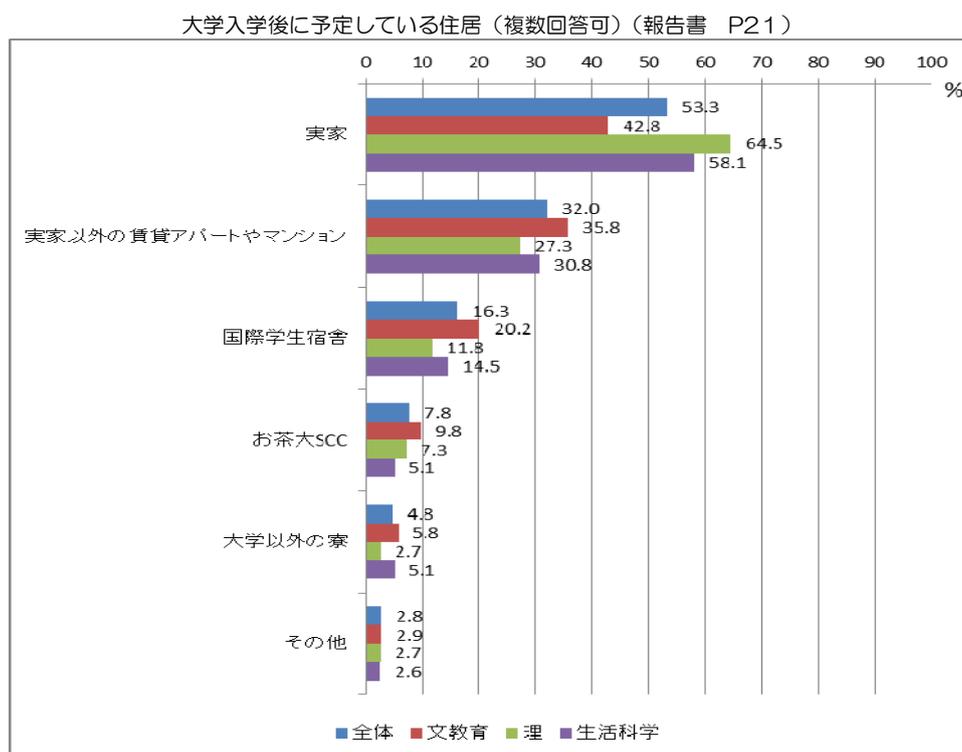
前回は「お茶の水女子大学に、なぜ、どのように入学したのか」についてご報告いたしました。今回は「お茶の水女子大学に入学後の学生生活」に目を向けてみたいと思います。

1. 都内を中心に、「実家」「アパート・マンション」「学生寮」から通学

本学の新生は、どこから本学に通学する予定なのでしょうか。



全体で見ると、「東京都」が最も多く、「埼玉県」「神奈川県」「千葉県」と続いています。本学の新生のうち、「東京都」の高校出身者は23.5%でしたので（報告書 P6）、親元を離れて、本学の所在地である「東京都」に居住予定の人が多いことがうかがえます。

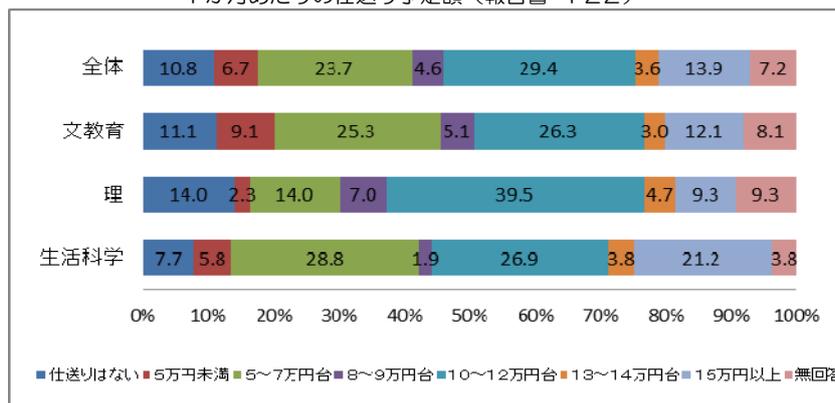


さらに、大学入学後に予定している住居について尋ねたところ、全体でみると、「実家」が半数を超えており、それに次いで、「実家以外の賃貸アパートやマンション」、「国際学生宿舎」や「お茶大 SCC」といった学生寮が多いようです。ただし、「実家」は文教育学部が他学部比べて明らかに低いことも示されています。

2. アパートやマンションの家賃は「毎月5～9万円台」がおよそ8割

では、本学の新入生、特に「実家」以外からの通学を予定している人は、どの程度の金額の仕送りを受け、そのうちのどの程度の金額を家賃として予定しているのでしょうか。

1 か月あたりの仕送り予定額（報告書 P22）

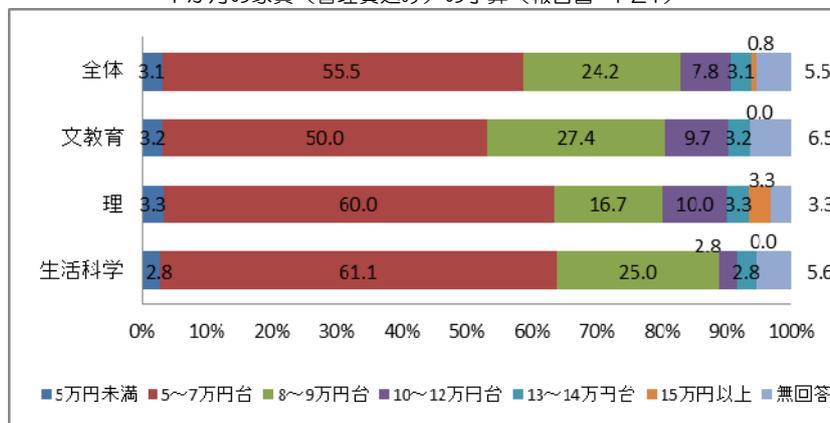


1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の人に尋ねたところ、全体でみると、「10～12万円」がもっとも多く、およそ3割を占めており、「15万円以上」も15%弱みられました。その一方で、「仕送りはない」もおよそ1割みられます。

なお全国大学生生活協同組合連合会（2012）「学生の消費生活に関する実態調査」によれば、下宿生のうち、仕送り「10万円以上」は39.4%と、この10年でほぼ半減している一方で、仕送り「0」の割合は1割を超えており、5万円未満層も25%を超えています。

さらに、1か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねたところ、「5～7万円」がもっとも多く過半数を占めており、「8～9万円」と合わせるとおよそ8割を占めています。

1か月の家賃（管理費込み）の予算（報告書 P21）

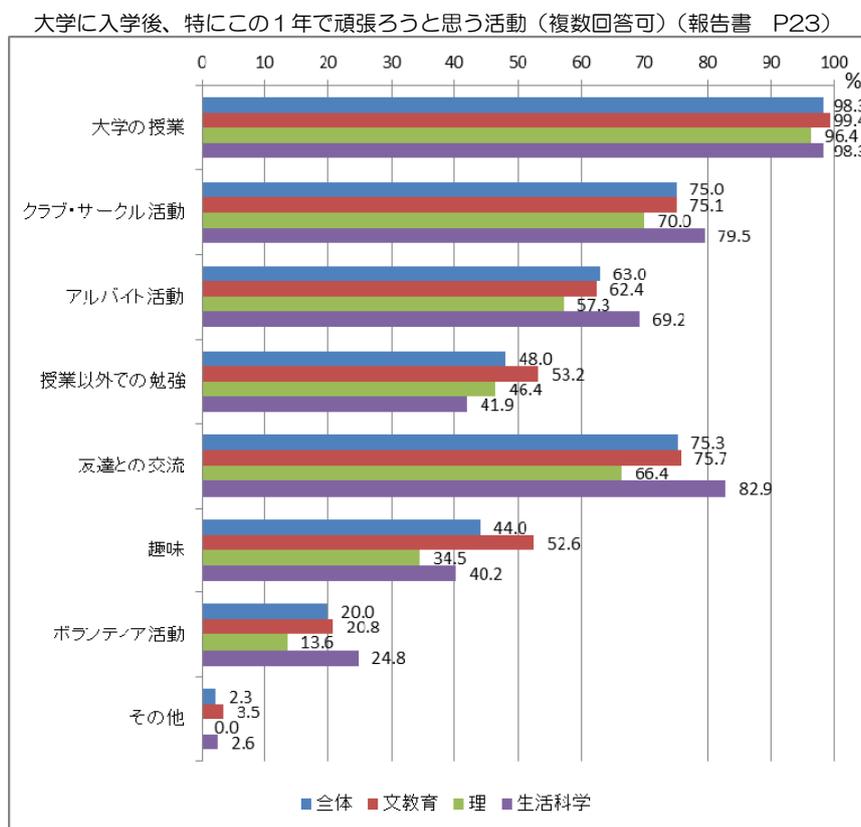


3. この1年で頑張りたいのは、

「大学の授業」「友達との交流」「クラブ・サークル活動」

では、本学の新入生は、大学に入学後、特にこの1年でどのような活動を頑張ろうと思っているのでしょうか。

大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について尋ねたところ、全体の98.3%の人が「大学の授業」と回答しています。他にも、「友達との交流」や「クラブ・サークル活動」が75%を超えていますがいずれも生活科学部での高さが目立ちます。



4. 新入生は「授業や単位」「就職や将来」「人間関係」が、

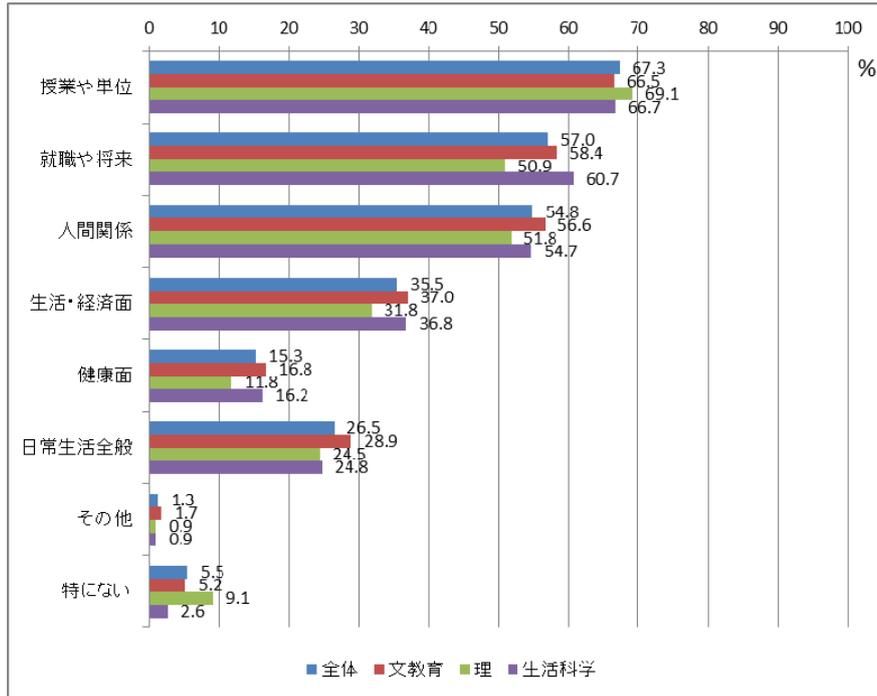
保護者は「就職や将来」「健康面」「人間関係」が不安

では、本学の新入生やその保護者は、大学入学後の学生生活に対してどのような不安を抱えているのでしょうか。

まずは、新入生自身の回答結果をみていきましょう。

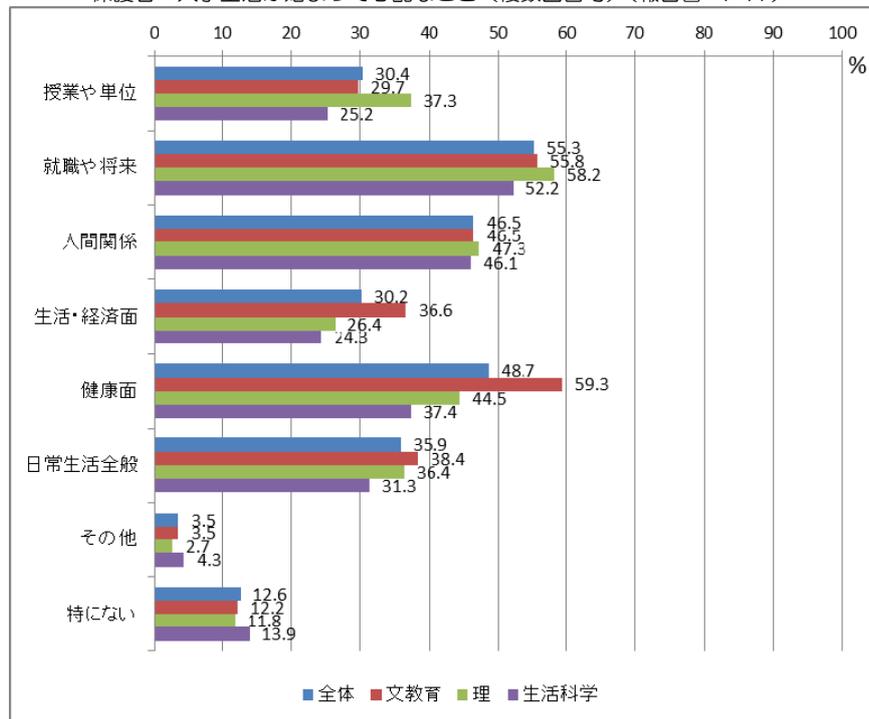
「特になし」は全体の5%程度に過ぎず、本学の新入生の多くは、大学生活に関して何らかの不安を抱えていることがうかがえます。不安の中身に目を向けると、「授業や単位」「就職や将来」「人間関係」の順に多くみられ、いずれの学部でも半数を超えています。

新入生：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）（報告書 P27）



同様に、新入生の保護者の回答結果をみていきましょう。

保護者：大学生活が始まって心配なこと（複数回答可）（報告書 P47）

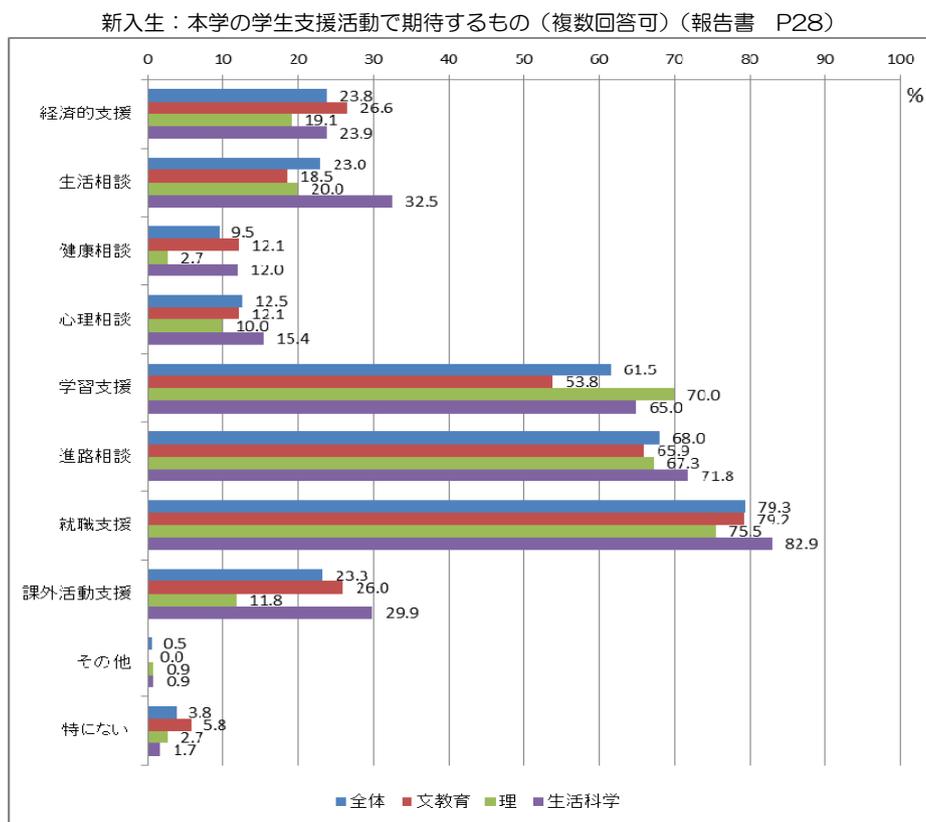


全体でみると、「就職や将来」「健康面」「人間関係」の順に多くみられました。「健康面」に関しては、文教育学部が他学部比べて明らかに高い結果も示されています。

全国大学生生活協同組合連合会（2010）「保護者に聞く新入生調査」によれば、「就職や将来」への不安は年々高まっており、2010年度の調査では44.5%となっています。本学の新入生の保護者にも、「就職や将来」に対する不安が高い保護者が多くいることが明らかです。

5. 新入生・保護者ともに、卒業後の進路に関する支援活動を期待

さいごに、本学の新入生や保護者が期待する学生支援活動についてみていきましょう。まずは、新入生自身の回答結果をみていきましょう。



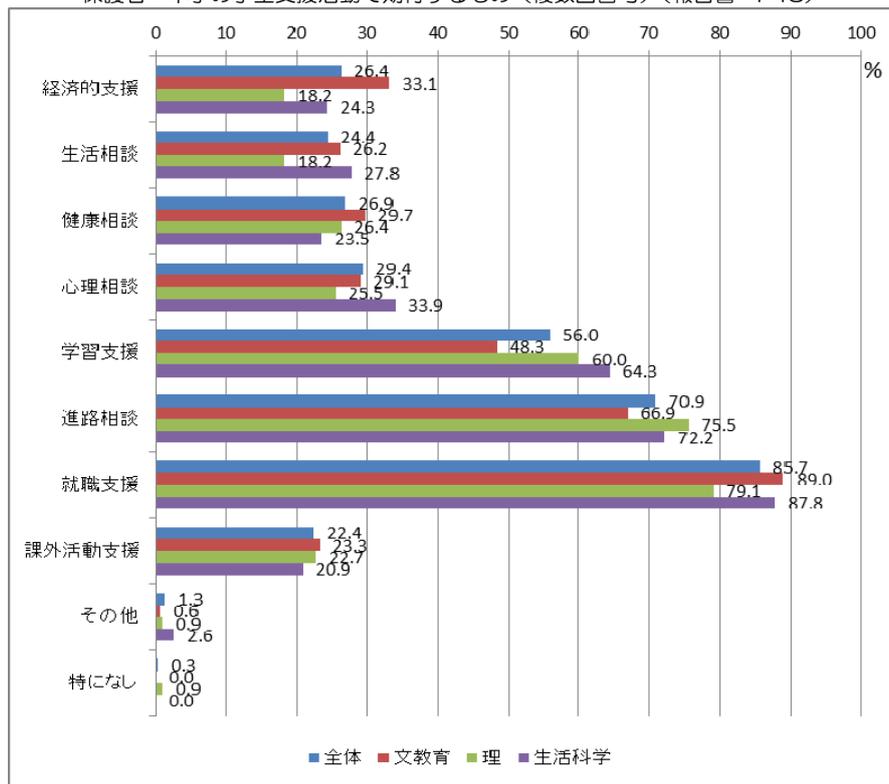
全体でみると、「就職支援」がもっとも多く、およそ8割に達しています。それに次ぐ「進路相談」もおおよそ7割におよんでいることから、本学の新入生は、卒業後の進路に関する支援活動に期待する人が多いことがわかります。

同様に、新入生の保護者の回答結果をみていきましょう。

全体でみると、「就職支援」がもっとも多く85%を超えていますが、理学部では8割程度にとどまっています。それに続いて、新入生の回答と同様に「進路相談」が多くみられ7割に達しています。

本学の在大学生を対象とした「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」では、本学の学生支援活動で足りないところとして、「就職支援」や「進路相談」の高さが示されています。新入生やその保護者の期待からみても、在学生の意見からみても、本学の学生支援活動として、卒業後の進路に関する支援活動には、今後、特に力を入れていくことが必要ではないでしょうか。

保護者：本学の学生支援活動で期待するもの（複数回答可）（報告書 P48）



【参考とした調査・報告書】

- お茶の水女子大学（2011）「平成 22 年度 お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」
- 全国大学生生活協同組合連合会（2012）「CAMPUS LIFE DATA2011 第 47 回学生の消費生活に関する実態調査」
- 全国大学生生活協同組合連合会（2010）「2010 年度 保護者に聞く新入生調査報告書」

次回は、
**「大学卒業後の進路展望
 と保護者の関与」**
 について、ご報告します。



「学生支援センター *Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子入手できるほか、TeaPot からPDF形式でダウンロードいただけます（<http://hdl.handle.net/10083/52311>）。